

# 南禅寺参拝の栞



三門

**南禅院** 赤レンガのローマ風な水路をくぐって石段を上った一段高い所にある。離宮禅林寺殿の「上の宮」遺跡で南禅寺発祥の地である。応仁の乱後久しく



南禅院「水路閣

荒廃していたが、元禄十六年（一七〇三）徳川綱吉の母桂昌院殿の寄進により再建された。方丈中央には南北朝時代作とみられる亀山法皇の御木像（重文）が安置されている。襖絵は狩野常信と其の子如川、随川の作である。幽邃な庭園は法皇遺愛の林泉で、史跡及び名勝に指定されている。築庭に当って竜田の楓を移植し、井手の蛙を放ったと伝えられる。池中に心字島を浮かべ、池泉廻遊式庭園である。

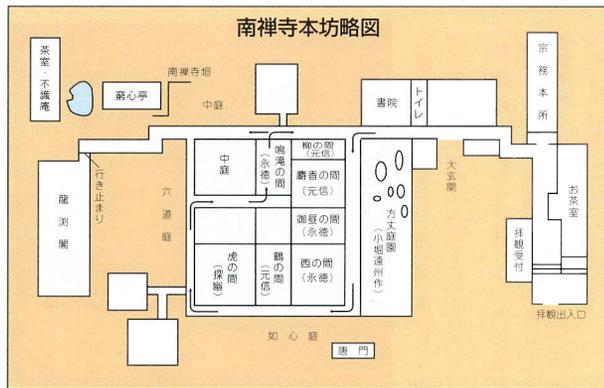
**其の他** 法堂を挟んで南禅院と対照的な位置にあるのが僧堂で雲水修行の道場である。現在も多数の雲水が刻苦精勵坐禅にいそしんでいる。塔頭寺院は現在十二ヶ寺、名園、茶席等が多い。天授庵、帰雲院、金地院、聴松院、南陽院、真乗院、高德庵、正因庵、牧護庵、慈氏院、正的院、光雲寺がその寺々である。

**南禅寺** 瑞龍山太平興国南禅禅寺と正称する。当寺は、禅宗の臨済宗南禅寺派の大本山である。

およそ七百年前の文永元年（一二六四）亀山天皇は山水明媚の当地を愛されて離宮禅林寺殿を営まれた。天皇はその後当寺の開山弘心大明国師に深く帰依されて法皇となられ、正応四年（一二二九）離宮を施捨して禅寺とされた。開山は大明国師、開基を亀山法皇、また諸堂伽藍を完成した二世南院国師を創建開山と仰いでいる。

歴史上の特色は京都「五山之上」に列せられたこと、当時最も傑出した禅僧が歴代住持として住山したこと、その結果五山文学の中心地として栄えたことなどである。

創建当時の伽藍は室町時代明徳四年、文安四年、応仁元年の三回火災に遭い今



は一字も現存しない。現在のものは桃山時代以降の再興である。

### 方丈庭園

(名勝指定庭園)

禪寺特有

の書院から、ほのあかりの広廊下を進むと方丈(清涼殿)広縁に出る。南面するとそこに代表的な禅院式枯山水の庭園がある。清涼殿、庭園、借景の羊角嶺大日山等の山並と三者がよく調和して、優雅枯淡で品格のある借景式庭園である。巨石の姿から、俗に「虎の児渡し」と呼ばれ、江戸初期以降に見られる樹木と石組を一ヶ所にまとめた、広い余白が楽しめる有数の名園であり、慶長年間小堀遠州の作庭になるものといわれる。

### 方丈

(国宝)

大方丈は前庭に面

したこけら葺の建物で天正年間豊臣秀吉が建造寄進した御所の清涼殿を、慶長十六年(一六一)後陽成天皇より拝領移



法堂

狩野探幽筆「水呑みの虎」



建したものである。

日本建

築(寝殿

造)の最

も美しい

豊かさを

もった構

築が見ら

れ、小方

丈と共に

国宝に指定されている。内仏は重文の平安時代作の聖観世音菩薩立像(現在は宝物殿に収蔵)であり、襖絵は狩野元信、永徳の稀れに見る傑作である。

小方丈は清涼殿に接続された後方の建物である。桃山城の小書院を移したもので、襖絵は狩野探幽の傑作といわれ、「水呑の虎」の図は特に名高い。

### 茶室

「不識庵」

は昭和二十九年

開基龜山法皇の六百五十年御遠諱を記念して、「窮心亭」は昭和四十三年に、いずれも茶道宗偏流一門の寄進によって建立されたものである。窮心亭の路地を囲んでいる竹垣は、創作されて「南禅寺垣」と名付けられている。

### 法堂

本坊の西側一段低い所に建っ

ている伽藍が法堂である。豊臣秀頼の寄進した法堂は明治二十八年焼失して、明治四十二年現在のものが建立された。天井の竜は今尾景年翁筆生の大作である。

### 三門

(重要文化財)

法堂の前方

に堂々と聳えるのが石川五右衛門の伝説で有名な三門である。寛永五年(一六二八)藤堂高虎公が大坂夏の陣の戦没者慰霊のために寄進建立したものである。楼上には大仏師左京の作になる釈尊像、十



六羅漢像が安置され、内部の板彩色は狩野探幽、土佐徳悦の合作と伝えられる。

### 勅使門

(重要文化財)

三門の前方

正面にある門が勅使門である。寛永十八年御所の「日の御門」を築地と共に明正天皇より拝領したものである。